

図書館通信 — 8 —

1971. 3

図書館建設の思い出

内藤 晃

静岡大学では一紛争が起ると図書館が繁昌する—というのが、図書館勤務の人たちによって認められている実態である。これはいうまでもなく、レポート速成のための利用が急増するというところから、必ずしも手ばなしで喜ぶわけにはいかないであろうが、しかしともかくも図書館が「繁昌」する、ということについては、一応敬意を表しておくべきであろう。事実係長さんの話によると、近ごろは600のロッカーが満員になり、時には二回転に入るようなこともあるということであるから、これを大岩時代の閲覧室の状態に比較すれば、文句なしに格段の進歩というべきであって、さすがに立派な入れ物ができただけのことはある、とその効果を喜ばざるをえない。

図書館がある程度学生に利用されるようになったことを考えてみると、その原因は必ずしも入れ物にあるのではなく、第一には指定図書制度が動きだしたこと、第二には閲覧室のオープンシステムが拡大されたことがあげられるであろう。静岡大学の指定図書制度が認められるにあたって、渡辺前学長の寄附された浄財50万円が重要な役割をはたしたことについて、かつて「静大だより」に書いたことがあるが、ともかく全国75国立大学のうちで比較的早くこの制度が実現されたことはまことに幸せなことであって、それはまさに「渡辺記念図書」とでもいうべきものであることを再確認しておきたい。

それにもかかわらず現在の図書館の閲覧スペースから考えれば、開架式の図書が5万冊に制限されていることは決して満足すべき状態ではなく、学生の希望にこたえるためにもなるべく早く10万冊に増加することが実現されるべきであろう。

かつて図書館建設委員会が、評議会の下部組織として発足したのは今から6年前のことであるが、江草（教育）・植松（教養）・杉山（教育）などの諸先生を中心とする委員は、たびたび会合をかさね、図書館事務局から提出された閲覧室・書庫・書架など内部の構造に関する具体的な意見を総合して一つの理想案をつくりあげ、渡辺学長のもとへ提出したのである。その重要なねらいは、①各学部の学生の流れを考えて、位置を大学の中心におくこと、②学生の利用の便をはかり、その入・退館・閲覧を自由にするためにワンポイント・チェックシステムとすること、③利用者ばかりでなく図書館職員の負担をなるべく軽くするために、図書館の構造をなるべく重層式にしないこと、一等の諸点であった。その後この案は、文部省によって多少修正される羽目に陥りはしたが、しかし委員会が立案した原則はほぼ修正案の中にとり入れられたばかりでなく、一方において書庫の収容能力が倍増（30万冊）されると同時に、他方では教職員専用エレベーターが増設され、わが静大図書館は優秀モデル図書館として誕生することとなったのである。

図書館が完成してから、すでに3年の歳月が経過した今、当時の建設計画をふりかえってみて気がつくことは、せっかく教官のために苦心して設備した特別閲覧室や個室がほとんど利用されていない点である。この現像は最近目だって各学部に分室のようなものが増加し、近代的図書館の大原則とも

いべき集中主義方式のプリンシプルが次第に崩れつつあることに重要な原因があることは明らかである。それはまさに中央図書館の危機ともいべきことであって、学内に大きな討論の渦をまきおこすに足る重大な課題である。したがって今後の図書館はあくまで参考部門の充実によって教官、学生へのサービスを心がけると同時に、研究者の要求する特殊な分散方式を取り入れた集中主義の旗を守るべきであろう。(人文学部長 元図書館長)

ドキュメンテーション講習会 に参加して

整理係 下村 一夫

2月16～19日まで、東大において文部省主催の第10回ドキュメンテーション講習会が開かれ、当図書館から、下村と大埜が参加した。以下はその印象記である。

○わが国における学術情報活動の現状

○海外における学術情報活動の現状

欧米、特に英国を中心に学術情報活動の実態を網羅的に説明し、英国の図書館網・大英博物館の組織改革 (Parry 報告, Dainton 報告) による情報活動のあり方を示した。そこでは、情報活動にとって何が基本で、どのような構想で組織化し、どう機能させているのかが、説明不足に終わった。

○学術情報の標準化

迅速かつ確実な情報検索と情報提供には、前提としてその標準化が必要であり、世界の趨勢は I S O (国際標準化機構) を中心にその方向に進んでいる。日本もそれに遅れぬために、積極的に対応すべきであると強調した。

○ドキュメンテーションに使用される機器の諸問題

パンチカードから電算機までの使用を体験に基いた具体例により、その有効性と難点等を説明し総体的なドキュメンテーションのシステムまで及んだ。

○抄録の作り方、使い方

概要を単に説明しただけに留まったが、抄録のあり方とその標準化の必要性について触れたが、抄録の作成作業過程には殆んど述べられなかった。たとえ、それが教授されることではなく、実務経験と能力に委ねられるものとしても、その作成方法について、もっと時間を割くべきであった。

○ドキュメンテーションと著作権

新著作権法の内容を猛烈な早口で、全体にわたり説明した。表面を一通り撫でただけで、個々の事例には、あまりふれることはなかった。

○索引の作り方・使い方

『経済学文献季報』の編集に際して生じた諸問題をどのように解決し、またどのように逐行しているかを述べ、実務—金と人手がかかる—が大変であることを強調したが、索引の作り方、使い方の説明にはなっていなかった。

○学術情報サービスの方法と実際

実務に携わっている講師が抄録・索引・参考図書・雑誌論文等の使い方、それを機械化、マイクロ化等による検索の有効性、またシステムをどうするかについて個々の具体的な例をあげ、その長短を説明した。東大農学部図書館でも雑誌の購入タイトル数を削減しているが、それは合理的思考に基いた在り方であることを強調していた。また抄録より deep index が最近の傾向であることもあげていて、内容のある講義であった。

○学術情報の検索法—電子計算機を中心として—

神戸大での経営学関係の論文の電算機による情報検索を専門的に、細部にわたって実際的な面とそれを採用した考え方の根底についても説明した。それは、理解し難い点もあったが、内容は充実したものであった。

ドキュメンテーションは、現在緊急な課題として登場してきており、活発に活動している。時日を経ぬ内に、わが図書館へもその波が押し寄せてくるであろう。その日のために、われわれの対応策を建てておかねばならない。

講習会は一口に言って、魅力に乏しかった。それは参加者のドキュメンテーションの知識、実務経験等の有無に差があつてか、講師自体が講義の焦点が絞りにくい所為か、講義内容に深淺があり、難易等まちまちであり、また時間不足もあって突込み不足であったことにも関係するであろう。参加者にも同様のことが言え、その知識・経験・関心の程度に応じ、不満を抱いたのではなからうか。私もその一人であった。もっとも私は、ドキュメンテーションの理解が足らず、積極的な姿勢で対処しなかったことにもある。一般的には、それは何も行なっていない所で問題意識が生れるわけもなく、またその知識を得たからといって何も生かす余地などはないといったことから生じたものであるとは言えよう。講師の一人が「とにかくやっ

てみなさい。やってみなければわからない」と述べたことは印象的であった。先ず、小さなことから一つずつ積み重ねていくことによって、何かを生み出してゆくことであると思った。その意味で、ドキュメンテーションの入門的知識を得たこととそれを考える契機となりえたことは、講習会に参加した意義があったと言えよう。

世界の三大目録と 国立国会図書館目録

昭和45年度専門図書費でBritish Museum (大英博物館) の蔵書目録が購入されたことによって、不完全ながら世界の三大目録が本館に揃うことになった。ここに日本の国立国会図書館蔵書目録と共に触れてみた。

1. National union catalog; pre-1956 imprints. Mansell, 1968- (in progress)

NUCとして知られ、北米(カナダの約50館を含む)約700館の協力館で受入れた資料のうち、1955年以前の刊行物を収録した総合目録である。予定巻数610巻、完成まで10年かかる計画といわれる。収録点数約1000万タイトル。後出大英博物館(British Museum, BM)との重複度は、13人の著者(主として古典)の著作について、BMはNUCの約 $\frac{1}{2}$ 、アメリカ議会図書館(Library of Congress, LC)は $\frac{1}{3}$ しか収録していない。著者順排列。将来LCの印刷カードを利用することになれば、洋書の整理はspeed upされるものと期待される。

現在第119巻(Conn ...)まで到着しているが、Bibleの項, Vol. 53-56は未刊である。

なお、1956-67年分のcumulationが1971年中に刊行されることになっている。(120 vols)。この他、LCの件名(主題)目録としては、1950-64年分が全67巻で出版されている。

2. British Museum. Department of Printed Books

General catalogue of printed books to 1955 compact ed. Readex Microprint Co. 1967. 27 vols. BMの蔵書目録で、photolithographic ed. (263 vols) reduced ed. 1955年までの整理済刊行物目録で、雑誌・新聞も含み、約200万点を収録。著者名のもとに参照の形で、伝記・解説書を付している。LCとの重複率は、収録タイトル数がほぼ同じであるにもかかわらず、著者約27%、著作約23%、図書17%といわれ、特に筆名・無著者名

図書を探すのに役立つ。また1800年以前の出版物に強く、LCに比し収録率は約19倍に達する。また外国書についても、LCの2倍の蔵書を誇っている。著者順排列。

他にこのTen years supplement. (1956-65. compact ed. 1969. 5 vols.)も到着している。

なお後続としては、Additions が年刊で刊行されている。また、LC同様な目録も別に出版されている。(24 vols.)

3. Bibliothèque Nationale. Catalogue général des livres imprimés de la Bibliothèque Nationale: Auteurs. Imprimerie Nationale. 1897-(in progress)

フランス国立図書館(BN)の蔵書目録で、1897年以来延々と刊行されており、現在第196巻(Uleyn)まで到着している。この目録はその巻の刊行時までの収書を収録する方針を採っているため、Aの部では70年前の収書しかわからない。

さらに第187巻以降は1959年までに出版された蔵書に限定されている。このため下記の1960-64年以降の5年刊版が刊行され、1959年までのgapも埋められた。

またこの目録では、著者不明の無著者名図書は収録していない(BMでは書名のもとに)。官庁出版物、団体出版物はいずれも個人名のもとに記入され、個人名のないものは省略されている。雑誌も全然記入されていない、など英米系の目録とは趣を異にしている。

上述の不均一性から利用上障害があるが、この種の欠点を補う特徴を備えている。

フランスの出版物を始めとするヨーロッパの出版物の宝庫であるため、BM・LCにない資料の書誌的事項がわかること、書誌的事項が詳細かつ厳密であり、著者の伝記的注記が含まれていたりする点がそれである。この目録には他にAuteurs, collectivité auteurs, anonymes. 篇(1960-64 12 vols. 1965-67)がある。

4. 帝国図書館・国立国会図書館蔵書目録

a) 和漢書

(1) 帝国図書館和漢書書名目録

第1-7編 明治26(1893)-昭和24(1949)
3月迄収録 13巻

(2) 帝国図書館・国立国会図書館和漢図書分類

目録

昭和24年(1949)3月迄収録 1巻

(3) 国立国会図書館蔵書目録

第1-4編 昭和23(1948)-33(1958)

書名索引付 昭和33(1958)末まで収録5巻

(4) 国立国会図書館蔵書目録・和漢書の部

昭和34-36年版 3巻

昭和34-43年版

第1-4編;索引、中国語、朝鮮語編が昨年
から刊行開始。第2編;社会科学(上)が既刊。これが完結す
れば、前述の昭和34-36年版は不要となる。この他、今年度から、国立国会図書館所蔵明治
期刊行図書目録全5巻が年1回逐次刊行される
ことになった。

b) 洋書

(1) 新収洋書総合目録

1954-1967(昭和29-42) 13巻

(2) 国立国会図書館蔵書目録・洋書編

昭和23-33(1948-1958)迄収録 2巻

昭和34-43(1959-1969)刊行予定

昭和44年度増加図書統計

	本館			浜松分館			農学部分館		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
0 総記	冊 911	冊 182	冊 1,093	冊 133	冊 2	冊 135	冊 68	冊 0	冊 68
1 哲学	369	337	716	59	28	87	0	0	0
2 歴史	1,376	141	1,517	32	19	51	38	1	39
3 社会	2,451	519	2,970	91	6	97	144	7	151
4 自然	1,389	1,002	2,391	1,121	664	1,785	267	228	495
5 工業	366	68	434	1,337	491	1,828	169	26	195
6 産業	243	30	273	4	0	4	393	126	519
7 芸術	302	33	335	13	0	13	6	0	6
8 語学	414	371	785	105	11	116	18	2	20
9 文学	1,094	903	1,999	54	55	109	10	0	10
計	8,897	3,586	12,483	3,049	1,276	4,315	1,113	390	1,503

おしらせ

- 〇開館 4月12日(月)から。教養部試験の都合上期
間変更の場合もあります。
- 〇長期貸出の返却期限は4月14日(水)です。利用
後は速かに返却して下さい。
- 〇図書返却の遅れている学生は、閲覧停止にする
こともあるので直ちに返却して下さい。
- 〇従来からすゝめていました教育学部浜松分校・
教養部西部教場の持出図書について事務整理の
為当該研究室へ伺います折はよろしく御協力お
願いします。

■東部地区図書委員会報告

昭和46年1月22日

(第13回) 於本館

- (1) 研究費による図書購入請求の受付を2月末日
までとしたい。早めに購入されるようにとの館
側の要請を了承した。

- (2) 法短図書問題は継続審議とした。

(第14回) 2月23日

- (1) 慣例となっている不明図書の補填費の負担方
について了承した。

- (2) 閉館を3月15日から4月10日までとし、その
期間を利用して、点検整理を行ないたい旨検討
した結果、今回教養部の試験が延びたために閉
館期間を短縮することもあり得るとし、これを
了承した。

《エトセトラ》

2月17・18両日、静岡県立中央図書館に於て、
JICST等の主催による「科学技術情報セミナー」
が開かれ、当館からは、吉田、村松、長南、山口
(橘)の4人が参加した。JICSTの活動内容を中心
にした情報活動の歴史と状況、今後のあり方、特
許情報、企業体の情報管理についての講演は、現
在の当大学図書館活動と直接的にかかわり合う内
容のものではなかったが、特に情報の獲得方法に
学ぶべき点があった。言うなれば今後の大学図書
館が、図書だけでなく、雑誌論文等カレントに増
産される情報を重視した収集・提供活動を行って
いくには、二次資料を選択的に活用することが必
須だということである。